

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案



篠原真矢(享年 14 歳) 2010 年 4 月撮影

篠原 真矢 (しのはら まさや)

平成7年(1995年)7月23日生

(享年14歳)

俺は困っている人を助ける  
人の役に立ち優しくする  
それだけ为目标に生きてきました

と遺書をのこし、自宅トイレにて自死

調査の結果、いじめが背景にある  
自死と認定

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【事件概要】

発生日時	2010年6月7日(月)	13時半頃
場所	自宅1階トイレ	
死因	硫化水素ガス吸引による中毒	
死亡時刻	同日19時49分死亡確認	(即死)
第一発見者	母親	
遺書	有	(配布資料有)

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【事件経過】（配布資料有）

### ＜中学2年時＞

- ・ 小学校時代から仲の良かった真矢の友人が、所属する硬式野球クラブ(リトルシニア)のチームメイト2人から、いじめを受ける
- ・ 学校(クラス)内では、新たに2人が加わり、計4人の加害生徒 によるいじめに発展
- ・ いじめられていた友人、および加害生徒4人と真矢は同じクラス  
友人をかばうため、加害生徒たちに接触を開始
- ・ 当初は、悪ふざけ程度であったが、徐々に肉体への暴力に変化  
後に刑事罰対象となる「パンツ下ろし」もこの時期に始まる

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

- ・ 秋頃の個人面談で、担任から真矢が「いじめられキャラ」であるとの言葉を母親が聞く
- ・ 3月頃、真矢本人から「友人がいじめられている」こと、「友人をいじめているのは4人」であることを、母親が聞き出す  
(ただし、自身がいじめ被害に遭っていることは告白せず)

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## < 中学3年時 >

- ・ 加害生徒4人は別々のクラスに分かれるが、真矢と友人、加害生徒2人は同じクラスのまま
- ・ 真矢へのいじめは影を潜めるも、友人や他のクラスメイトへのいじめは継続
- ・ 4月の家庭訪問で、母親が担任に対し、真矢の友人へのいじめ事実を伝える → 「様子を見ます」との返答
- ・ 5月中旬、加害生徒一人の教科書をカッターナイフで切り裂く
- ・ 上記事件で4人の加害生徒から執拗な呼び出し、詰問を受ける
- ・ 6月7日、自宅にて硫化水素自殺

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【調査委員会】

設置日 6月15日

### 設置目的

次の目的に基づく情報収集に際し、その調査方法や調査結果の考察に関して意見を述べるとともに、本事案が発生するに至る事実関係を調査する。

- ① 中学校3年男子(真矢)の死亡に関する背景等について
- ② 在校生の心のケアに関する体制について
- ③ 再発防止に向けた学校の指導体制について

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

委員構成 合計11名

〔学校;3名〕 校長、教頭、教務主任  
〔市教委;2名〕 指導主事×2  
〔保護者;3名〕 PTA会長×1、副会長×2  
〔地域;2名〕 民生委員×2  
〔有識者;1名〕 医者×1

調査期間 約2.5ヶ月 (6月中旬～8月下旬)

聴取人数 約100名

(生徒、保護者、地域住民、塾、小学校、遺族) 報告書  
A4版46ページ 9月4日公開 (遺族、報道関係者)

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【加害行為】

- ・ 背中を叩く
- ・ 蹴る
- ・ 頭をはたく
- ・ 肩にパンチをする
- ・ プロレスごっこと称し、壁や床に押し付ける
- ・ 馬乗りになる
- ・ 名前を呼び、振り向いた瞬間に頬をたたく
- ・ ズボン下ろし、パンツ下ろし



# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【検証結果】

- ・ 4人の生徒から真矢に対する行為を「いじめ」と認定  
(力の優位性、攻撃性・反復性、内面への被害性を文部科学省 のいじめの定義と照らし合わせた結果)
- ・ 真矢自身は、「本当の自分」と「周囲が求める自分」との狭間で、常に揺れ動き、悩んでいた
- ・ 自身だけではなく、友人を含む他者へのいじめを繰り返す4人を許せず、自殺により彼らの行為を表沙汰にする「復讐」行動と推察
- ・ 自殺との因果関係については調査対象外
- ・ いじめを「行為」としてではなく、「状態」としてとらえる考え方に立ち、学年、学校全体とその周囲の状況について考察した結果、「自殺の外的要因の一つ」として、校内に「いじめ」の状態があったことを認定

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【学校体制の問題点】

### ① 組織上の問題点

生徒指導に対して学年任せになっており、学校全体で取り組もうとする姿勢に欠けていた。

### ② 生徒指導上の問題点

問題行動を起こした生徒の内面に寄り添わず、行動の裏にある想いや状況を理解しようとする指導が進んでいなかった。

### ③ 管理職のリーダーとしての問題点

校長・教頭と、教務主任・生徒指導教諭との連携不足。教員配置において校長の見通しが不十分。

### ④ 保護者・家庭との連携上の問題点

生徒指導上の問題が発生したときの対応が担任任せ。生徒指導部、管理職の考えが反映されていない。

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

なぜ(遺族が納得できるような)事実解明ができたのか？

- ① 首長のトップダウンによる調査指示
- ② 的確で迅速な初動調査
- ③ 調査対象(教員・生徒・遺族)への徹底した聞き取り
- ④ 遺族との定期的な情報交換で、信頼関係を築く
- ⑤ 遺書、残されたメモ、友人の証言等から、真矢の立場で推察

遺族を納得させようと小手先のテクニックでこの事態を乗り切り、事件の収束のみを図ろうとするような調査委員会では、この先も遺族と折り合うことはない。何としても事実に向き合おうという「情熱」を持ち、本当の意味で亡くなった子の心に寄り添うことが出来なければ、真相解明など出来るはずが無い。言葉にすると古臭いが、今こそ調査する者の「心意気」が問われている。(川崎市教委)

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

## 【まとめ】（調査報告書より抜粋）

たいへん不安定で人生の目標が見えにくい今の社会状況の中、思春期の真っ只中にいる中学生は、誰もがそれぞれのやり方で自分らしさを求めて右往左往している。

真矢君が残したいくつかの言葉からは、真矢君が自己の在り方を真剣に見つめ、それゆえに確固とした自分らしさを求めて揺れ動き、傷つく中でも、「困っている人を助ける、人の役に立ち優しくする」

という目標のために、彼らしい行動をいくつも取っていた。

その行動は周囲の目には見えないものが多く、彼のそんな目標を知る人はほとんど居なかったが、その行動によって彼の思いを受け止めた人が確実に何人か存在する。

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案

彼の死を考えると、周囲の生徒たちの行為・状態が彼の心に影響を与えたことは否定できない。

しかし、教員はじめ、家族、周囲の大人たちが、彼の心のありように少しでも気づき、彼の心にそっと寄り添うことは、できなかったのか。

彼を取り巻いたすべての状況が彼の死に関わり、それぞれが、それぞれの立場で自分を振り返り、自責の念に駆られていることを察する。

どんなに嘆いても彼が戻ることはない。

それならば、彼の死を決して無駄にすることなく、彼の死から何を得るのか。今後一人一人の人間が、人と人との関わりの在り方と、かけがえない命の大切さを、本当に真剣に考え、本校が彼の望んだ「優しさ」に満ちた学校になることを心より望み、本調査委員会としての報告を終える。

# 第三者調査委員会報告

篠原真矢自死事案



2008年3月 小学校卒業式より (写真左から、母、父、真矢)

ご清聴ありがとうございました